

編集後記

国民の意思を踏みにじる安倍政権の傲慢さと横暴さは、ますます抑制を効かなくなっている。先日、憲法を公然と無視して安保法制を強行に成立させた。一種の「クーデター」である。その後、国民からの批判を回避するために臨時国会をも開こうとしていない。さらには、米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画で埋め立て本体工事に着手した。

この間、政権内部での意見の多様性は完全に失われた。政権の意向にそって、マスコミの「中立性」も「自立的」も萎縮し、「言論空間」そのものが統制され狭まっている。そのような政治的・社会的状況の中で、学生グループ「SEALDs (シールズ)」など若者の運動の発展に希望が見出される。高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだせ』(朝日新書、2015)が売れている。この本では、ひとりひとりの「ぼくらの民主主義」の重要性を強調している。この発想は民主主義の原点を再確認している。官僚や政治家や大企業に民主主義を過大に期待することは無理である、この教訓は歴史的にも明らかであるし、とりわけ新自由主義とグローバル化の今日、その可能性はない。

かつて、花森安治も述べていた。「民主主義の<民>は、庶民の民だ。ぼくらの暮らしをなによりも第一にすることだ。・・・ぼくらの暮らしと政府の考え方がぶつかったら、政府を倒すということだ。それがほんとうの<民主主義>だ。」(「一銭五里の旗」)

「完全に意義のない御用理論を力で押しつけることを可能ならしめるのは、自由な思想の欠如なのである。」(S.ペイユ「抑圧と自由」)

上記二つの引用は『定義集』(ちくま哲学の森 別巻、1990)による。

本号は、4本の英語論文を掲載した。本誌としては多分、始めても試みであろう。多様な読者を考えて、日本語の要旨(解題)を追加した。カルロス・デ・クエト論文は、EU内部における複雑な「南-北」問題をグローバルな視点から分析している。ビクトル・ロベス論文は、メキシコでも注目を引いている「ドラッグ」問題とそれに関連する深刻な「暴力」状況について、新自由主義型グローバル化の破壊的領域として考察している。また、フェルナンド・レジョ論文は、中国の経済成長が継続されるなかで、気候変動の危険性を抑え、二酸化炭素の排出量を削減する枠組みを提案している。最後の阪本論文は、阪神・淡路大震災や東日本大震災、また大規模津波災害を受けたインドネシアの復興住宅の事例を検討し、アスベスト被害の軽減に向けた取り組みと包括的な石綿被害補償制度構築の重要性を考察している。

英語論文掲載のあり方については今後も検討していきたい。

[2015/10/25 松下 記]

アジア・アフリカ研究

2015年 第55巻 第4号 (通巻418号)

2015年10月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集・発行人 松下 洵

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (3946) 1479

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人(NPO法人)アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.